

JENESYS2018 ASEAN 派遣プログラム第 5 陣の記録

テーマ：日本文化交流

派遣国：ラオス人民民主共和国

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、日本の高校生および引率者計 18 名がラオス人民民主共和国へ派遣され、派遣国における、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進、及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2018 年 12 月 18 日～12 月 26 日の日程で「日本文化交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、政府関係者との面談、日本の ODA サイト、日系企業等の現場の視察を行い、日本と派遣国との関係、及び日本の国際貢献に関する知見を深めました。そして、学校交流において、日本や日本の文化の説明、実演を行い、日本の魅力を発信しました。また、ホームビジットを行い、地域の人々と交流し、相互理解を深めました。帰国前の報告会では、プログラム中の発見と、プログラム経験を活かしたアクション・プラン（帰国後の活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】長崎県立諫早高等学校 18 名

【交流時の日本事情の説明概要】

日本のサブカルチャー、学校生活、長崎県の地域概要・特色・特産品、年間行事

2. 日程

12月18日(火)	【オリエンテーション】、福岡国際空港出発 ラオス・ビエンチャン国際空港到着
12月19日(水)	【表敬訪問】在ラオス日本国大使館、ラオス青年同盟 【訪問・講義聴講】JICAラオス事務所 【JOCV活動視察】ラオス青年同盟
12月20日(木)	【学校交流①】チャオ アノヴォン高校 【文化視察】ビエンチャン市
12月21日(金)	【学校交流②】ポンサバン高校 【ホームビジット】ビエンチャン市
12月22日(土)	【ホームビジット】
12月23日(日)	【文化体験】托鉢、ホアイホン職業訓練センター 【文化視察】トンカンカム市場、【視察】COPEビジターセンター
12月24日(月)	【ODAサイトの訪問・視察】 アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP)、IV-JAPAN 【ワークショップ】

12月25日(火) 【成果報告会】、【関係者との歓送会】、ラオス出国
 12月26日(水) 帰国

3. プログラム記録写真

	
12月19日【表敬訪問】 在ラオス日本国大使館	12月19日【表敬訪問】ラオス青年同盟
	
12月19日【訪問・講義聴講】 JICA ラオス事務所	12月19日【JOCV 活動視察】 ラオス青年同盟
	
12月20日【学校交流①】 チャオ アノヴォン学校	12月21日【学校交流②】ポンサバン学校
	
12月23日【文化体験】 ホアイホン職業訓練センター	12月23日【視察】 COPE ビジターセンター

	
12月23日【視察】トンカンカム市場	12月22日【ホームビジット】
	
12月24日【ODAサイトの訪問・視察】 アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP)	12月24日【ODAサイトの訪問・視察】 IV-JAPAN
	
12月25日【成果報告会】	

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生（長崎県立諫早高等学校）

ラオスに到着して空港を出てすぐ、日本の国旗や看板の日本語表記、ラーメン屋、寿司屋などがあり、ラオスでは日本文化の普及がとても進んでいると感じました。日本大使館や JICA を訪問し、日本のラオスに対する支援の状況を聞き、日本とラオスの強い結びつきを知りました。このような社会的結びつきが日本文化の普及にもつながっているのではないかと感じました。このことは一番楽しかった学校訪問でも感じました。私たちが現地の学生に話しかけると「こんにちは！はじめまして！」と返答し、仲良くなった子の中には「日本語の塾や合気道に通っているよ！」と写真を見せながら話してくれた子が多くいました。私が一番驚いたのは、日本の教育について話すと「私の夢は日本に留学することなんだ。」と話してくれる子がたくさんいたことです。そのためにラオスの子たちは、毎日一生懸命勉強して奨学金をもらうために努力していると知り、たくさんの同世代の子たちがこんなにも頑張っているのだと刺激を受けました。

◆ 高校生（長崎県立諫早高等学校）

日本は素晴らしい国です。図書館でたくさんの本が読める贅沢を、音が出る信号機のすべての人へのやさしさを、私たちは知りませんでした。日本がラオスに多大な支援をしていることも、このプログラムに参加するまでは知りませんでした。私はこのことを多

くの人に伝えたいと思いました。同時に、ラオスに一般の人にも障害のある人にも優しいインフラの支援をしたいと考えるようになりました。

◆ **高校生**（長崎県立諫早高等学校）

私が印象に残ったことはまず、日本とラオスの関係が派遣前の想像以上に深いと言うことでした。到着した空港前に、日本の支援の証である石碑があり、交流した高校生の多くが親日家だと感じました。今回の派遣を通して、日本のことを海外からの視点で見ることができるようになりました。例えば、日本のラオスに対する支援のあり方です。青年海外協力隊を実際に訪問したことで、現地の人々に寄り添った一方的ではない支援に感動しました。もう一つは、学校交流の時に知り合った現地の高校生の人柄が、日本の高校生と親切なところなど似ているところも多いのですが、自国に対する誇りや、勉強に対するやる気が日本の高校生より多いと感じました。学校交流の際にラオスのことを質問すると、詳しく説明してくれました。派遣前にたくさん日本の事を学んできたけれど、ラオスの学生から「日本について誇れることは何？」と聞かれた時にはっきりと答えることができませんでした。日本では得られない発見でした。

◆ **高校生**（長崎県立諫早高等学校）

学校交流ではいろんな出会いがあって、その時だけでなく、日本に帰ってきてからも連絡を取るようなかけがえのない友達が増えたことをうれしく思っています。また、SNSをお互いにフォローしたことにより、私たちの日本での様子や、ラオスの人たちが現地で普段どんな生活を送っているのか知ることができ、良かったと思います。

受入れ側の感想（抜粋）

◆ **交流した学生**（ポンサバン高校）

日本の学生と交流しディスカッションができて、とても嬉しかったです。日本の興味深い文化について多くのことを知ることができました。そして今回の交流では、自分自身の国についての知識を交流の中で互いに理解すること、それと同時に、日本人の良き心、礼儀、見本となるべきことを知ることができました。日本とラオスでは文化は異なりますが、友達としてお互いに友情を育んでいくことができるということを学びました。このような交流の機会があればまた参加したいと思っています。

◆ **交流した高校教諭**（ポンサバン高校）

ラオスの若者が日本の若者と交流をすることができたことを嬉しく思います。グループ・ディスカッションを通じてラオスの若者は日本という国について知ることができ、日本の文化、食生活、教育、学習活動について知ることができました。ラオスの学生にとっては、今後もメールで連絡を取り合うことのできるような友人を作る良い機会になりました。この交流により友好が深まり、また国家の開発や発展につながることを願っています。

◆ **交流した学生**（チャオ アノヴォン高校）

日本の学生さんたちと一緒に時間を過ごし、私は日本の文化、食事と生活、気質そして日本人の生活についてより深く理解することができました。これらはとても興味深いものでした。もし可能であるなら私も日本を訪問して、今回の交流を通して得た知識や日本文化への理解をさらに深めたいと思います。私は日本に対してとても興味があるので、

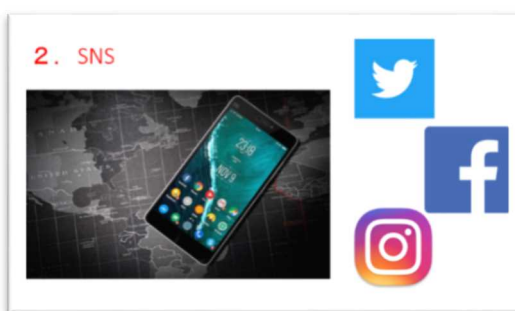
日本の名所や旧跡を訪れたいと思っています。文化は生活、国民性、国の独自性を示すものだからです。私はお互いの知識交流のため、ラオスの文化を日本人に知らせたいと思います。JENESYS プログラムに参加し、日本の学生との楽しい時間を過ごすことができ、素晴らしい経験を得られたことに感謝します。

6. 参加者の対外発信

 現地学生との座談会 ボンサワン中等教育学校 (Phonsavanh Secondary School) 現地学生との座談会 ボンサワン中等教育学校 (Phonsavanh Secondary School) 現地学生との座談会 ボンサワン中等教育学校 (Phonsavanh Secondary School) JENESYSラオス研修 (3日目)  ラオスの学生とともに チャオアンワン中等教育学校 (Chao Anouang Secondary School) の生徒 JENESYSだより全冊集合 とても明るく、楽しく、そして熱意に感染していただきました！ 最後にはお別れののど歌からなるはなとこぶす交流の時間を過ごすことができました。 ラオスの学生とともに チャオアンワン中等教育学校 (Chao Anouang Secondary School) の生徒   現地学生とダンス交流 演習は「踊る人のか」とを披露し、ラオスの学生は踊りかたを説明を披露してくれました。お別れにはおどろきのダンスを一緒に踊りました。 現地学生とダンス交流 ボンサワン中等教育学校 (Phonsavanh Secondary School) 現地学生とダンス交流 ボンサワン中等教育学校 (Phonsavanh Secondary School)	 「いいね！」43件 miya_miyas I visited Phonsavanh Secondary School. We were welcomed and showed traditional dances and a presentation in #laos . I had a good time. I'll never forget today. Thank you for welcoming us. #ラオス #jenesys2018 #bestfriend #japan #highschool #日本
日々のプログラムの活動 (学校ホームページ)	学校交流についての発信 (参加者個人 SNS)

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

1. School Newspaper To 1200 students in our school !! 	2. Laos special campaign week 
---	---



1. **校内新聞の作成と配布** 本校の生徒・教員・保護者をターゲットに、校内新聞を作成し、配布します。内容は、プログラム期間中の体験、気づいたこと、感じたこと等を、写真とともに掲載し、情報を発信します。また、再発見した「日本の魅力」というところ（具体的には文化の多様性や世代間の平和への思いなど）に重きを置き作成します。
2. **ラオスウィークの開催** 校内の生徒が実際にラオスの文化の一面や、ラオスと日本の関係を実感できることを目的とします。教室を利用し、プログラム中の派遣団が撮影した写真の展示、スライドショーを上映し、ラオスと日本の結びつきを実感することができるブースを設置します。ラオスについて紹介するだけでなく、日本文化の魅力、伝統についても再考する機会にしたいと考えています。
3. **長崎新聞への投稿** 帰国後、諫早市長への表敬訪問のタイミングを活用し、社会へ発信するため、長崎新聞への投稿を試みます。プログラムの概要、体験を通して感じたこと、再発見した日本の魅力等を伝えます。
4. **SNS による日本とラオスの魅力発信** 派遣団でページを開設し、ラオスと日本の魅力を地域へ発信します。
5. **身近で継続的に実施できる Facebook や Instagram、Twitter 等、SNS による発信** 派遣団でページを開設し、ラオスと日本の魅力を発信するだけでなく、地域社会へ発信したい。ページへのリンクを校内新聞の中に掲載することで、より多くの人に見てもらう機会を作ります。